

おわりに

本報告書は、龍谷大学法学部の法政アクティブリサーチ第5期（2021年度後期～2022年度前期）の活動に関する報告書である。

今期も、コロナ禍の下、対面での十分なヒヤリングができない状況のなかで、それぞれのクラスが、自分たちで議論し、選んだテーマについて、学習し、議論し、当事者等へのヒヤリングを行い、まがりなりにもこうして報告書が完成したことを喜びたい。

今期の様子を時系列に沿って整理しておこう。

2021年9月22日（水曜日）4講時、全クラスの顔合わせから今期の活動が開始された。それぞれのクラスのなかで、さらにテーマごとの班がつけられ、自主的な学習と議論がすすめられていった。

そして、12月4日（土曜日）、卒業生2名と法政アクティブリサーチ受講生で就職の内定をもらっている4回生を迎えて、就職活動と法政アクティブリサーチの関連などにつき、特別共通授業が行われた。もともと、担当教員ごとにクラスが分けられてはいるが、その枠をこえて、法政アクティブリサーチという科目を履修しているという実感ないし連帯感を育むため、何回かの全クラスを集めた共通授業を行うことが、この授業のコンセプトであったと伝え聞いているが、コロナ禍により、前年度と同様のものに止まらざるを得なかったのは、かえすがえすも遺憾というほかはない。

冬休みから春休みにかけては、フィールドワークの時期であるが、今期も一部では遠隔地でのフィールドワークが行われたものの、近場やオンラインでのヒヤリングが多かったようである。また、例年よりも遅れて、年度をまたいだり、4月にヒヤリングを行うところも見られた。

以上のような学習とフィールドワーク等を経て、2022年5月11日（水曜日）、全クラスを集めて中間報告会が行われた。テーマが多岐にわたったので、班の数も多く、かなり長時間にわたる報告会となった。

その後、ヒヤリング結果の対象者へのフィードバック等を行ったうえで、この報告書の作成へとラストスパートをきった。これまで、文献注などのついた報告書を作成したことのない受講生にとっては、難しいところが多かったようである。少なくとも、私のクラスは締切直前まで行われた修正要請に疲弊した雰囲気がかがわれる。

今期も、コロナ禍の継続するなか、さまざまな困難がありつつも、こうして報告書を完成させた受講生のみなさんの奮闘に敬意を表するとともに、ヒヤリング調査等に応じていただいた関係者のみなさまには感謝申し上げたい。

2022年6月22日

担当教員を代表して 武井 寛
(やや遅れた梅雨入りの京都・深草校舎にて)



**RYUKOKU
UNIVERSITY**

法学部